

第3回西尾市岩瀬文庫見学会

加 藤 直 志

【抄録】 希望者を対象に、西尾市岩瀬文庫の見学会を実施した。今回から、SSHの企画として実施することができた。当日は、学芸員や大学教授の先生から、岩瀬文庫の紹介や古典籍調査についてのお話を伺ったあと、実際に同文庫が収蔵する古典籍の一部を手にとって閲覧させていただいた。生物学の源流となる、本草学、博物学関連の古典籍からは、動植物のスケッチの方法などを学んだ。また、文法中心の、通常の古典の授業では学べない、我が国の書物文化についても伝えようとする企画であった。

【キーワード】 西尾市岩瀬文庫 古典籍 伝統的な言語文化 SSH 生物

2013年7月12日（金）、西尾市岩瀬文庫見学会を開催した。第3回目となる今回は、SSH企画という形を取り、古典文学を専門とする国語科・加藤直志と日本史を専門とする社会科・曾我雄司、さらには、生物を専門とする理科・齋藤瞳の3名で引率した。事前に参加希望者を募り、当日は、中1～高2までの希望者22名が参加した。

岩瀬文庫は、1908（明治41年）に、西尾市の実業家岩瀬弥助が設立した私立図書館が起源で、戦後西尾市の施設となり、現在に至っている。同文庫には、『後奈良天皇宸翰般若心経』（重要文化財）、『枕草紙』（岩波書店の日本古典文学大系『枕草子』の底本）をはじめとする貴重な蔵書が約8万冊収蔵されている。国文学や歴史学などの人文科学分野に留まらない、ジャンルを越えた種々雑多な蔵書を誇ることが特色であり、愛知万博のポスターにも用いられた『本草図説』など、今日の生物学の源流ともいえる博物学、本草学の典籍も多く収蔵している。

同文庫では、2000年度より、新目録完成を目指した平成悉皆調査を実施しており、筆者が学生時代にその調査に参加していた。その縁もあり、同文庫主査学芸員の林知左子先生、同文庫資料調査会会長で名古屋大学大学院文学研究科教授の塩村耕先生のご協力のもと行っている企画である。

午前中、林先生から、岩瀬文庫の説明、古典籍についての講義などをしていただき、午後は、塩村先生から、現在調査中の江戸時代の暦や京都の地図などを見せていただきながら、説明を受けた。その後、閲覧室で実際に古典籍を手にとって見せていただいた。『枕草子』のほか、『平家物語』『源氏物語』『本草図説』のほか、愛知県の指定文化財「紺紙金字長寿王経」、さらには、NHKの大河ドラマ「八重の桜」にも登場した、幕末の会津藩士が記した『京都守護職始末』などを閲覧した。

また、昼休みには、休憩室で西尾名物の抹茶を注文するなど、古典籍以外でも楽しい一日になったようである。

参加した生徒の感想（一部）

特に印象的だったのは、人が書物の内容を手で書き写す「写本」だ。（中略）印刷技術が発達するにつれて写本はなくなってしまったが、それによって本をつくるのは多少なりとも便利になり、多くの人が本を読めるようになった。現在ではもはや活字も使われず、パソコンひとつで大抵の作業はできてしまう。しかし、文明の発達で退化したり、失われてしまったものもあるという話を、私は忘れない。

例えば、卵の殻から作られたとても上質な紙は、今では誰も作り方がわからないために二度と同じものは作れない。それを聞いたとき、新しいものが古くて良いものを壊してしまう恐ろしさを感じた。それは今の本のあり方にも通じるものではないかと思う。世の中は電子書籍がはやりつつあるようだが、それに危機を感じる。確かに紙の本より持ち運びやすく、場所もとらないが、本当にそのような理由だけで紙の本に代わるものにしてしまっているのか。何事も効率ばかりを重視するのは、どこことなく不気味な気がする。

私は古書籍を通じ、新しいものばかりが優れているわけではなく、便利なものを何も考えずに受け入れてしまうことの重大さに気が付いた。

（高校1年生女子）

今日見学をして特に心に残ったのが動物の絵が書かれた「本草図説」と紺紙の上に金で経を書いた「長寿王経」です。

本草図説の方は金魚について書かれた章が一番印象に残っています。針で描いた様な細い線に、何百年たった今でも少しも色あせない着色の仕方。鋭い観察力に心を奪われました。本当に、驚く程細かく寸分の狂いもなく描写してあるので、どのようにして描いたのか、下書きなどはしていないのかといった疑問が帰り道に沸きました。あんな綺麗で繊細な絵を出来るものなら私も描きたいと思いました。

（高校1年生女子）



塩村先生のお話



林先生のお話

西尾市岩瀬文庫見学会参加者の皆様へ

国語科・加藤直志

当日(7月12日)のタイムスケジュール

- 8:50 集合(時間厳守!)
名鉄金山駅中央改札口
- 9:09 金山駅発 特急(一部特別車) 豊橋行き
- 9:29 新安城着
- 9:37 新安城発 普通西尾行き
- 9:58 西尾口着
徒歩(暑いかもしれないので飲み物持参がよいかも)
- 10:15 岩瀬文庫着
- 10:15~12:45 岩瀬文庫の紹介・古典籍についてのお話
(岩瀬文庫主査学芸員 林知左子先生)
- 11:45~12:45 昼食休憩
※周辺の飲食店へ行く、お弁当を公園で食べるなど自由行動。
ただし、コンビニや飲食店はやや遠い。文庫内の喫茶室で持参したお弁当を食べることは可。喫茶室では西尾の抹茶などを飲むことができます(ただし有料)。
- 12:45~15:15 閲覧室で資料閲覧
(岩瀬文庫主査学芸員 林知左子先生)
「岩瀬文庫平成^{しやうかい}悉皆調査」についてのお話
(名古屋大学大学院文学研究科教授 塩村耕先生)
- 15:20 岩瀬文庫出発
徒歩
- 15:42 西尾口発 普通新安城行き
- 16:02 新安城着
- 16:12 新安城発 特急(一部特別車) 岐阜行き
- 16:33 金山着

持ち物・服装

制服着用、昼食(近隣の飲食店やコンビニを利用してもよいが、やや遠い)、道中暑いかもしれないので飲み物、筆記用具(鉛筆)
古典籍に触れますので、爪は切っておくこと。指輪、時計はその場で外してもらいます。

その他

当日、急病などで欠席する場合は、8時30分までに学校に電話してください。
台風接近などの際にはやむをえず中止する場合があります。その場合は、学校のホームページに掲載します。